



チュニジア：バルドー博物館襲撃事件

2015年3月18日、チュニジアの首都チュニスで同国の国会議事堂と隣接する博物館が襲撃され、日本人複数らの外国人観光客をはじめとする多数の死傷者が出た。本稿執筆時点でいかなる主体からも犯行声明や犯行を示唆する情報の発信はない。チュニジアや隣接地域で発生した主な治安事案は以下の通り。

日時	関係団体	発生場所	概要
2013年1月16日	血判部隊	アルジェリア	アルジェリア南部で石油・ガスプラントが襲撃され、日本人を含む外国人多数が死亡。
2013年11月6日	イスラーム的マグリブのアル=カーイダ	マリ	11月2日にマリ北部でフランス人記者2名が殺害された事件について、イスラーム的マグリブのアル=カーイダが犯行声明を発表したとの報道あり。
2014年春ごろ	ウクバ・ベン・ナーフィウ部隊	チュニジア	チュニジア西部での戦闘や、チュニジアの官憲についての脅迫が増加。
2014年6月1日	イスラーム的マグリブのアル=カーイダ	チュニジア	チュニジア西部のカスリーンでベン・ジッドウー内相（当時）宅を襲撃。
2014年6月5日	イスラーム的マグリブのアル=カーイダ	アルジェリア？	捕らえていたフランス人人質に、オランダ大統領に向けた命乞いをさせる動画を発表。
2014年9月24日	カリフの兵士団	アルジェリア	「イスラーム国」の扇動に応じ、フランス人を誘拐・斬首した。
2014年11月17日	イスラーム的マグリブのアル=カーイダ	？	捕らえていたヨーロッパ人人質2名（内1名はオランダ人）の命乞い呼びかけ動画を発表。
2014年12月17日	イスラーム国	？	チュニジア出身の戦闘員がチュニジアでのジハードは義務であるとの扇動動画を発表。

## 評価

現時点で今般の襲撃事件に関与したと発表した主体はないため、襲撃が何らかの組織が計画した作戦であるか否かについての論評もできない。日本人を含む外国人を殺害することが襲撃の目的であったか否かについても不明である。但し、チュニジアが過去数年間「イスラーム国」への世界最大の人材供給地であること、隣接するリビアが無政府状態に陥り、イスラーム過激派も含む様々な武装勢力の拠点となっていることも事実である。例えば、チュニジア政府が国内での「イスラーム国」のための勧誘活動やヒト、モノ、カネなどの資源の送り出しに対する取締りを強化すれば、当然「イスラーム国」のために活動している人々との間の摩擦や衝突の可能性も増す。

また、アルジェリアやサハラ地域で活動している「イスラーム的マグリブのアル=カーイダ」や、2013年1月のアイン・アミーナース（イナメナス）事件を引き起こしたとされる「ムラービトゥーン」などの諸派は、2014年以降支持者・ファン層の資源や関心が「イスラーム国」に集中することにより活動が低迷し、この状態を挽回するための広報効果の高い作戦行動を必要としている。

とはいえ、現時点では襲撃の主体の正体は不明であり、彼らの意図や目的についての憶測をめぐらせるよりも、被害規模の確認やチュニジアや周辺諸国の日本権益の安全確認が先決である。また、「アラブの春」の「唯一の成功例」と称されてきた影で、イスラーム過激派の跳梁跋扈を許してきたチュニジアの政治・治安についての評価の見直しも必要であろう。

（イスラーム過激派モニター班）

---

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

◎各種情報、お問い合わせは中東調査会 HP をご覧下さい。URL : <http://www.meij.or.jp/>